



「こども研究所」開設のご案内

ーイベントのお知らせー

開催概要：

遺伝子病制御研究所（村上正晃所長，廣瀬哲郎副所長）の大きな柱となっている“免疫学”を中心とした生命科学の学問に触れることを通して，子供たちの科学への好奇心を活性化し，子供たちの可能性，夢，そして世界を広げることに つないでいくことを目的として，全国的にも生命科学分野においてはおそらく初めての「こども研究所」という，小学生（3～6年生）対象の期間限定の研究教育学習プログラムを立ち上げることになりました。実際に研究所で2日間，大学教授から講義を受け，その後，各研究室で実験をしたり，論文を読んだり，海外留学生と交流したりというような研究室体験をして，最終的に「こども研究所」の研究者としての認定書が発行されます。さらに，認定されたこども研究者は，中学生になったら，「こども研究所」にアシスタントとして参加できるという長期的な取組を考えています。

開催趣旨：

日本の子供たちは，科学に対する理解力は世界の中で比較的高いレベルですが（経済協力開発機構（OECD）生徒の学習到達度調査（PISA2015）参考），科学に関する本を読むことや知識を得ることに興味があると答えた子供たちは，全体平均より大幅に低く，科学の楽しさを紹介することや学ぶ意欲を高めることは重要な課題であると考えられます。このような観点からも，考え方が柔軟であり，色々なことを吸収する能力が旺盛な子供の頃から科学とふれあう機会を持つことの意義はとても大切であると認識されます。そこで，冬休み中に小学生の3～6年生を対象にして，遺伝子病制御研究所で大学教授による生命科学に関する講義を行います。ここでは「なぜ」という課題を掲げて，子供たちと一緒に考えながら分かり易く講義をします。さらに，英語の論文を見る機会や海外から来ている研究者との交流，顕微鏡を使って細胞を見る実験など，実際の研究に触れる貴重な機会を提供します。本コースをすべて修了した参加者には，こども研究所の所員としての認定書を発行し，中学生になったら遺伝子病制御研究所での研究活動への参加を優先的に獲得でき，こども研究所の活動時には，アシスタントとして参加してもらう機会を検討しています。

「こども研究所」は，札幌市教育委員会をはじめ，4,500名余りの日本最大の免疫学者の集まりである日本免疫学会のご支援，また，日本インターフェロン・サイトカイン学会や，北海道を基盤に生命科学をテーマとして社会貢献活動に取り組んでいる秋山記念生命科学振興財団のご支援で推進されます。

日程：2017年1月16日（月）・17日（火） いずれも午前9時15分～

場所：北海道大学遺伝子病制御研究所（札幌市北区北15条西7丁目）

主催：北海道大学遺伝子病制御研究所，日本免疫学会，

共催：日本インターフェロン・サイトカイン学会，秋山記念生命科学振興財団

参加対象：小学3～6年生の児童（30名程度）

※応募多数のため，募集は締め切らせていただきました。

参加費：無料

言語：日本語

※詳細については，添付資料をご覧ください。

お問い合わせ先

北海道大学遺伝子病制御研究所分子生体防御分野

教授 高岡 晃教（たかおか あきのり）；「こども研究所」所長



"Kids Institute"
Institute for Genetic Medicine
Hokkaido University

TEL：011-706-5020 FAX：011-706-7541 E-mail：takaoka@igm.hokudai.ac.jp



北海道大学 遺伝子病制御研究所



2017

こども研究所



はじめます
実験しよう！

日にち 平成 29年 1月 16日・17日の二日間

時間 9:15 ~ 12:00

場所 北海道大学 遺伝子病制御研究所
札幌市北区北 15 条西 7 丁目

申込 下記メールにてお申し込み。
2017こども研究所 事務局メール宛 igm-sci@igm.hokudai.ac.jp
メールに名前・性別・学年を記入下さい。30名程度で締切となります。

<主催> 特定非営利活動法人 日本免疫学会
北海道大学 遺伝子病制御研究所

<後援> 札幌市教育委員会

<共催> 公益財団法人 秋山記念生命科学振興財団, 日本インターフェロン・サイトカイン学会



大学の研究所で講義を受けて実験しよう！



小学生（3～6年生）の皆さん、こんにちは。
北海道大学で、科学についてのオモシロい話をきいてみませんか？！
科学についての いろんなことが学べるよ！ そしてそのあとに、研究室に行って、実験してみよう！！ 2日間、白衣を着て研究者になって、こども研究員の認定書をもらおう！！
北大で待ってるよ！

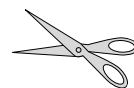
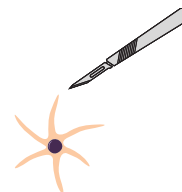
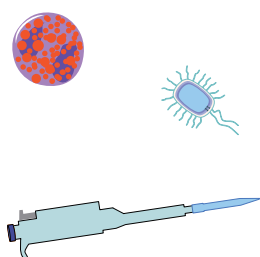


「こども研究所」設立にあたって

日本のこどもたちは、科学に対する理解力は世界の中で比較的高いレベルですが（経済協力開発機構による2016年調査 <PISA>）、科学に関する本を読むことや知識を得ることに興味があると答えた子供たちは、全体平均より大幅に低く、科学の楽しさを紹介することや学ぶ意欲を高めることは重要な課題であると考えられます。このような観点からも、考え方が柔軟であり、色々なことを吸収する能力が旺盛な子供の頃から科学とふれあう機会を持つことの意義はとても大切であります。わたしたちは、北大に附属する遺伝子病制御研究所（村上正晃所長）において、免疫、感染症、がんに関する最先端の基礎医学研究を行っています。そこで、子供達（今回は小学生（3年生から6年生）を対象）に実際に大学の研究所に二日間来ていただき、まず、生命科学に関する講義を受けていただきます。ここでは「なぜ」という課題を掲げて、子供たちと一緒に考えながら分かり易く講義、さらに実際に英語の論文を見る機会や海外から来ている研究者と話をしたり、顕微鏡を使って細胞を見るなど実験を行うなど、研究者になってもらう機会を提供すべく、今回、全国的にもおそらく初めての生命科学についての『こども研究所』を設立することにしました。本コースをすべて修了した参加者には、こども研究所の所員としての認定書を発行し、中学生になったら遺伝子病制御研究所での研究活動への参加を優先的に獲得でき、次回のこども研究所の活動時にアシスタントとして参加してもらうことにもなります。今回は、4,500名余りの日本最大の免疫学者の集まりである日本免疫学会のご支援もいただいております。加えて、日本インターフェロン・サイトカイン学会や、また北海道を基盤に生命科学をテーマとして社会貢献活動に取り組んでいる秋山記念生命科学振興財団にもご支援いただいております。このような背景の中、本プログラムの目的とビジョンは、特に免疫学を中心とした生命科学の学問にふれることを通して、子供たちの好奇心を活性化し、子供たちの可能性、夢、そして世界を広げることに つないでいくこととあります。

ぜひ、多くの子供達のご参加を心よりお待ちしております。

初代「こども研究所」所長 高岡晃教



日時：平成29年1月16・17日の二日間

場所：北海道大学 遺伝子病制御研究所

札幌市北区北15条西7丁目 TEL: 011(706)5536

(5階セミナー室および各研究室)

対象：小学生（3～6年生）；約30名程度

日程：

第1日目：

- 9:15～9:30 こども研究所の開所式
- 9:30～10:00 講義（高岡晃教教授）
「パート1：なぜ、かぜをひいてもなおるの？」
- 10:00～10:30 講義（清野研一郎教授）
「パート2：なぜ、がんになるの？」
- 10:45～11:45 研究・実験体験
（遺伝子病制御研究所 各研究室的の皆さん）

第2日目：

- 9:15～9:45 講義（村上正晃教授）
「パート3：なぜ、気持ちが病気に関係があるの？」
- 9:45～10:15 講義（廣瀬哲郎教授）
「パート4：なぜ、生き物は進化するの？」
- 10:30～11:30 研究・実験体験
（遺伝子病制御研究所 各研究室的の皆さん）
- 11:30～11:45 こども研究員認定書授与式 & こども研究所の開所式

講師スタッフ

高岡晃教 清野研一郎 村上正晃 廣瀬哲郎

